

はやぶさ2とアホウドリ

2020

特別公開講演会

開場時間 12:00

3.21(土) 13:00 - 15:30

会場

甲南大学 5号館511講義室

入場無料

対象 中学生以上一般向け



はやぶさ2とアホウドリ

中学生以上一般向け 入場無料
予約は不要です

甲南大学
5号館511講義室

1. はやぶさ2から見える太陽系の起源

塚本 尚義

北海道大学理学研究院・JAXA宇宙科学研究所 教授
国際隕石学会レオナードメダル、Geochemistry Fellow、日本地球化学会学会賞、三宅賞他

「46億年前、銀河系の一つの分子雲の一部が収縮を始め、中心に太陽・その周りに惑星が生まれました。惑星にまで成長できなかった天体が小惑星や彗星です。」これが現在の太陽系の起源の考え方です。地球にやってくる隕石は、小惑星や彗星の破片と考えられていますが、どの天体からやってきたのかわかりません。また、隕石中には、岩石が蒸発してしまう高温のガスが凝固した物質や少し高温になると分解してしまうアミノ酸のような有機物質が混在していますが、これらの物質が太陽系のどこでどのような現象により作られたのかわかっていません。現在の太陽系を見渡してもこれらを作ることができる現象がどこにも見つからないからです。はやぶさ・はやぶさ2は、隕石からよくわかる化学とよくわからない地質学・地球物理学をつなげるミッションです。はやぶさ・はやぶさ2が持ち帰る小惑星の破片を、隕石の時のように分析することにより、小惑星がどんな天体なのか初めてわかります。小惑星の観測結果を解析することにより、小惑星のでき方やできた場所がわかります。小惑星のできた場所がわかれば、小惑星の物質を作った未知の現象が現在起きているところを、望遠鏡を使う天文学・宇宙物理学により、銀河系の中のどこから発見できるかもしれません。この講演では、はやぶさ2の最新の成果を交え、太陽系の起源について紹介します。



2. アホウドリ: 絶滅の危機から再生へ

長谷川 博

東邦大学名誉教授
都民文化栄誉章、吉川英治文化賞、日本学士院エジンバラ公賞他

現在、地球上でも地域でも、多くの生物種が絶滅の危機に瀕し、生物多様性の保全はわれわれにとって重要な課題のひとつである。大型海鳥アホウドリは、羽毛採取のために大量に捕獲され、一時絶滅したと信じられた。しかし、1951年に伊豆諸島鳥島で10羽ほどの生存が確認され、再発見された。ぼくは1976年から保全研究を続け、2018年に鳥島集団の繁殖つがい数が1,000組、総個体数が5,000羽に達したことを確認した。最近、この集団は年率9.1%で指数関数的に成長しているので(約8年で倍加)、2026年に10,000羽、2030年代半ばには20,000羽になると予測される。この鳥の再生は確実になった。



お問い合わせ先
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1
甲南大学理工学部 宇都宮弘章
TEL: 078-435-2471
E-mail: hiro@konan-u.ac.jp